

令和7年度 学校経営計画（中間）報告について

| 評価領域             | 重点目標                                                                                                              | 具体的方策（R7）                                                                                                                                                        | 評価 | 評価と課題                                                                                                                                                                                   |
|------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 魅力ある学校づくり        | 主体的に学び続ける生徒を育てるため、「ほんまもん」の学びを提供する。                                                                                | 授業の質の向上に努め、学校全体で養う力「ACCEL※」を意識した授業等を実践するとともに、将来にわたって主体的に学び続ける姿勢を涵養する。<br>※「ACCEL」とは「Agency」、「Collaboration」、「Creativity」、「Expression」、「Logical thinking」の頭文字を表す。 | B  | （成果）「ACCEL」を意識した授業が各教科で実践され、体験的な学びも充実してきている。掲示物の活用により、校内での浸透が進んでいるところであり、教員・生徒ともに「ほんまもん」の学びの方向性を共有できた。<br>（課題）「ACCEL」の定着には学校全体での授業研究が必要である。また、スローガン導入初年度のため、上級生への浸透も含め学校全体に浸透できるように努める。 |
|                  |                                                                                                                   | 探究学習での学びの過程や成果を生徒が自分自身の言葉で語れるようポートフォリオを活用した指導を行う。                                                                                                                | B  | （成果）2年生全員にラボ活動でポートフォリオを作成するよう指導した。<br>（課題）今後はポートフォリオを用いて生徒と教員が対話しながら学びを深めていく手法を共有し、効果的な活用を検討していく。                                                                                       |
|                  |                                                                                                                   | 海外連携校・在京留学生などとの相互交流や国際交流の機会、海外研修の機会を充実させ、グローバル社会と主体的にかかわる人材育成に努める。                                                                                               | B  | （成果）多様な国との交流機会が豊富にあり、授業内でも積極的に国際交流を行った。今年度は新たな交流校も加わり、取り組みがさらに広がっている。<br>（課題）研修旅行の行き先について、本校の教育活動や社会の情勢を踏まえて引き続き検討していく。                                                                 |
|                  |                                                                                                                   | ICT活用事例について研修を継続し、1人1台端末のより効果的な活用法を研究・推進する。                                                                                                                      | B  | （成果）ICT活用事例について定期的に研修を実施している。また、生成AIについても教員研修を実施するなど検討が進めている。共通テストにおける電子出願も順調に進められている。<br>（課題）生成AIの今後の活用方法について、さらに検討が必要である。                                                             |
| 組織とその運営          | 分掌間の連携を密にして、全校体制で教育活動を推進するとともに、様々な視点からの危機管理意識を高め、安心安全な教育環境の構築に努める。                                                | 各種行事や取組について、事前調整を丁寧に行う等、関係分掌間の連携を密にし、円滑な実施に努める。                                                                                                                  | B  | （成果）各分掌の協力により、ステップアッププログラムや各行事が円滑に実施され、効果的なオリエンテーションや講演会を行った。<br>（課題）ICTを活用した情報発信の方法について、今後の議論と検討が必要である。                                                                                |
|                  |                                                                                                                   | 探究学習について、全教職員で取り組む体制を充実させ、教材や指導方法の共有化を進める。                                                                                                                       | B  | （成果）教員研修やラボ会議を通じて探究の手法を共有し、ラボ活動の支援資料も整備した。教材開発やコンテスト応募など、生徒・教職員ともに探究活動への関わりが広がっている。<br>（課題）探究活動のさらなる質向上に向けて、継続的な共有と支援の工夫が必要である。                                                         |
|                  |                                                                                                                   | 教職員一人一人が様々な危機への感度を高めることにより、危機発生時の未然防止に努め、危機対処方法への理解を深める。                                                                                                         | B  | （成果）AEDの増設や普通救命講習会の実施により、教職員・生徒の危機対応力が向上し、迅速な対応ができる環境を整備した。<br>（課題）門扉閉鎖業務の変更に伴い、施錠管理など安全面への注意が一層必要である。                                                                                  |
|                  |                                                                                                                   | 委託業者による法定点検や校内自主点検を行い、学校施設・設備の安心安全の確保のため、校内体制を構築する。                                                                                                              | B  | （成果）技術職員や事務室の尽力により、施設の不具合に迅速に対応できており、清掃や設備交換も適切に行っている。<br>（課題）今後も不具合対応を円滑に進めるため、情報共有の仕組みの継続的な活用と改善が求められる。                                                                               |
| 学習と進路指導          | 学習指導要領に基づく教育を推進するとともに、あらゆる機会をとおして、自己の将来に対する明確なビジョンに基づいた高い進路目標の実現に努める生徒を育成する。                                      | 学習指導要領における指導と評価や入試の状況を踏まえ、授業や評価の改善に向けた研修等の機会の充実を図る。                                                                                                              | B  | （成果）教職員研修会や外部研修の案内を通じて、教員間で情報共有（入試最新情報等）を進めている。<br>（課題）教科主任会議などを活用し、継続的な情報共有の仕組みを強化する必要がある                                                                                              |
|                  |                                                                                                                   | 進路ガイダンスや面談をはじめ、あらゆる機会を通して生徒一人一人が高い志をもつようにはたらきかけるとともに、その実現に向けて互いに高め合い、粘り強く努力できる集団となるようサポートする。                                                                     | B  | （成果）サマーセミナーや進路ガイダンス、面談などを通じて生徒の進路意識を高めるとともに、個別支援や丁寧なサポートを実施している。また、進路指導においては、学年部と進路指導部との連携も円滑に行っている。<br>（課題）入試直前までの学力向上を意識させる働きかけを継続し、生徒の進路希望に沿った支援となるよう指導体制を進めていく。                     |
|                  |                                                                                                                   | 探究学習の成果について教員間の共通理解を深め、その成果を活用した進路実現がさらに進むよう指導体制の構築を図る。                                                                                                          | B  | （成果）探究学習の成果を利用した進路実現に向けた説明会を実施し、推薦・総合型選抜への理解を深めた。また、ポータルサイトの充実や体制づくりにより、探究活動にかかる情報共有と支援が進んでいる。<br>（課題）進路実現に向けて、探究成果を利用をすすめるため継続的な情報提供と支援体制の強化が必要である。                                    |
| 生徒指導と特別活動        | 人権尊重の意識や、挨拶・マナー等の規範意識を向上させるとともに、多様な価値観を尊重し、自立した行動ができる生徒を育てる。また、特別活動をとおして、主体的・協働的に行動できる人材を育成し、対話を重視した活気ある生徒集団を育てる。 | 「人権三法」の確実な理解を土台に、基本的人権を尊重する心を育み、人権問題を直視し、解決に取り組む姿勢を育成する。また、多様性を尊重する意識と協調性のさらなる向上を目指し、系統的な人権学習を実施する。                                                              | B  | （成果）毎週の人権教育推進会議を活用し、学年部等と連携を密にしながら効果的な人権学習（教育）の実施に努めている。<br>（課題）基本的人権を尊重する心を育むとともに、多様性を尊重する意識の向上を目指し、引き続き系統的な人権学習を実施する。                                                                 |
|                  |                                                                                                                   | 生徒との対話を重視しながら、規範意識の向上や基本的生活習慣の確立に生徒が主体的に取り組む姿勢を育てる。                                                                                                              | B  | （成果）生徒会活動や学校行事を通じて、生徒が主体的に課題解決に取り組むなど規範意識の向上が見られた。<br>（課題）ながらスマホや通学マナー、身だしなみなどの生活指導について、継続的かつ学校全体で統一した対応が必要である。                                                                         |
|                  |                                                                                                                   | 学校行事、部活動、生徒会活動などのあらゆる教育活動を通して、自己有用感、自他を尊重する態度をさらに向上させる。                                                                                                          | B  | （成果）部活動や学校行事、生徒会活動への積極的な参加を通じて、生徒の主体性の育成や自己有用感が高まる機会をもてるよう取組を進めている。<br>（課題）今後も生徒の主体的な取組を継続的に促し、成長を支える環境づくりが必要である。                                                                       |
|                  |                                                                                                                   | 3年間を見通した主権者教育やデジタルシティズンシップ教育の充実を図る。                                                                                                                              | B  | （成果）デジタルシチズンシップ教育や生成AIに関する学習機会が設けるなど情報教育を計画的に進めている。また、ポータルサイトの活用により、ICT活用や探究活動等の情報共有も促進している。<br>（課題）主権者教育指導計画の整理と、生成AIの利活用に向けたガイドラインの適切な運用と見直しが今後の課題である。                                |
| 健康安全と環境美化        | すべての生徒が心身両面において健やかな学校生活が送れるようにサポートする。また、環境美化意識を高め、学習環境の維持や校内美化に努める。                                               | 配慮が必要な生徒の実態把握に努め、保護者や関係機関との連携を密にして、卒業後も見据えた丁寧な支援を行う。                                                                                                             | A  | （成果）担任・保健部・スクールカウンセラーなどが連携し、配慮が必要な生徒への支援が丁寧に行っている。入学時からの対応や面談を通じて、生徒の状況に応じて支援できるように努めている。<br>（課題）継続的な支援体制の強化が必要である。                                                                     |
|                  |                                                                                                                   | 教室の換気や手洗いの励行など、生徒の感染症予防対策への意識を持続させる。また、空気検査やCO <sub>2</sub> モニターを活用し、学習環境を整える取組に努める。                                                                             | B  | （成果）空気検査の実施や手洗い啓発ポスターの掲示など、衛生管理への取り組みを進めている。<br>（課題）CO <sub>2</sub> モニターの活用意識が低下しており、継続的な活用促進が必要である。                                                                                    |
|                  |                                                                                                                   | 清掃活動や保健美化委員会の活動を通して校内美化に関する意識をより高め、学校全体で、節電、ゴミの分別と減量、美化意識の向上につながる取組を実施する。                                                                                        | B  | （成果）掲示物やポスターの活用、生徒の自主的な美化活動により、校内環境の整備と衛生意識の向上が進んでいる。<br>（課題）二酸化炭素排出削減や省エネルギーへの取り組みには、さらなる努力と意識向上が必要である。                                                                                |
| 学校図書館の活用         | 学校図書館の機能や役割をさらに充実させ、生徒の読書活動や探究活動をさらに活発なものとする。                                                                     | 各種広報や企画展示等を通して、図書館の積極的利用を勧め、生徒の自発的・主体的な読書習慣の形成に努める。                                                                                                              | A  | （成果）図書委員による企画、広報活動、特別講義との連動などの工夫により、生徒の図書館利用が促進されている。<br>（課題）読書への関心を高めていくため、今後も生徒にとって魅力的な図書館づくりを継続していくことが必要である。                                                                         |
|                  |                                                                                                                   | 図書館と各教科が連携して、図書資料等の整理・充実やICT機器の活用に努め、探究活動の支援及び言語活動の充実を図る。                                                                                                        | A  | （成果）探究活動に関連する図書や資料が充実しており、生徒・教員ともに授業や課題研究で積極的に活用している。年度ごとのニーズにも柔軟に対応できている。<br>（課題）今後も探究活動を支える図書・資料の充実と、継続的な支援体制の強化が必要である。                                                               |
|                  |                                                                                                                   | 教職員の教科指導や研究活動に関し、資料・情報の収集に努め、図書の供用や情報提供等、教職員へのサポート機能の充実を図る。                                                                                                      | A  | （成果）小論文や志望理由書、面接対策に役立つ資料が充実している。<br>（課題）今後も進路指導に必要な資料の充実と、教職員との連携教科や教職員のニーズに応じた支援体制の整備が必要である。                                                                                           |
| 家庭・地域社会との連携と広報活動 | 校種間連携や外部との連携を進めるとともに、学校の魅力を広く伝え、中学生や府民から期待され、選ばれる学校をめざす。                                                          | 大学等の高等教育機関や企業、地域等に加え、卒業生との連携も推進し、「ほんまもん」の学びを提供する。                                                                                                                | A  | （成果）卒業生の講演会や京都府立大学との連携、サマーセミナーなどを通じて、生徒のキャリア意識や探究活動の質が向上している。また、卒業生の協力体制も継続的に整ってきている。<br>（課題）卒業生や外部機関との連携を今後も持続・発展させるための体制強化が必要である。                                                     |
|                  |                                                                                                                   | 説明会やホームページ等を充実させ、全校体制による、より効果的で受け手に響く情報発信に努める。                                                                                                                   | A  | （成果）中学生対象の学校説明会で在校生や卒業生の協力を得るなど工夫を重ね、本校の魅力を効果的に発信できている。また、各種情報ツールへの投稿や更新も活発に行うことにより、生徒の関心も高まっている。<br>（課題）今後も受け手に響く情報発信の工夫を継続し、広報活動の質をさらに高める必要がある。                                       |